富岡製糸場を核とした富岡市中心部のまちづくりに関する検討

前橋工科大学　学生会員　○内田　倫彦
前橋工科大学　学生会員　　山本　裕之
前橋工科大学　正会員　　湯沢　昭

１．はじめに

明治時代に突入し、当時近代化を推進する先進諸国と比較し立ち遅れていた日本では、諸外国と対等な立場にするため富国強兵・殖産興業を重点政策としていた。当時の我が国において生糸は主要な輸出品目であったが、輸出量が増えるにつれ粗悪品が増え、信頼回復が急務となった。そこで明治政府は近代的な製糸工場の建設を計画し、富岡の地に官営の模範工場が建設された。明治 5 年に完成し操業を開始した富岡製糸場は、生糸価格の低迷などによって昭和 62 年に操業を停止するまでの 115 年もの間生糸の生産を行ってきた。

２．研究目的

平成 15 年に当時の小寺弘之群馬県知事が「旧富岡製糸場をユネスコの世界遺産にする研究プロジェクトを発足させる」という方針を記者会見で公表したことから富岡製糸場の世界遺産登録に向けた運動は始まった。また、平成 25 年 7 月に富岡製糸場周辺住民を対象に行ったアンケート調査(表-1)では約 78%の住民が富岡製糸場の世界遺産登録に賛成している(「多少思う」と「非常に思う」の合計)。しかし、世界遺産の登録には直接登録される資産だけでなく、資産を保護する目的で設けられる資産周辺の緩衝地帯(バッファゾーン)の整備も世界遺産登録の前提条件となっており重要である。今回調査を行った富岡製糸場においての緩衝地帯は富岡市中心部である。

そこで本研究では、富岡製糸場の評価に関する調査を分析し、富岡製糸場周辺地域の整備に関して地域住民の意見を反映したまちづくりの検討を行っていく。

３．研究方法

研究の流れを図-1 に示す。始めに富岡製糸場の評価と富岡市中心部のまちづくりに関するアンケート調査を富岡製糸場の周辺住民に実施、その分析を行うことにより周辺住民の考えを明らかする。また、他の世界遺産登録地や観光名所地のある街でのまちづくりなども参考にしつつ、富岡製糸場周辺住民の意見を反映したまちづくりの検討をする。

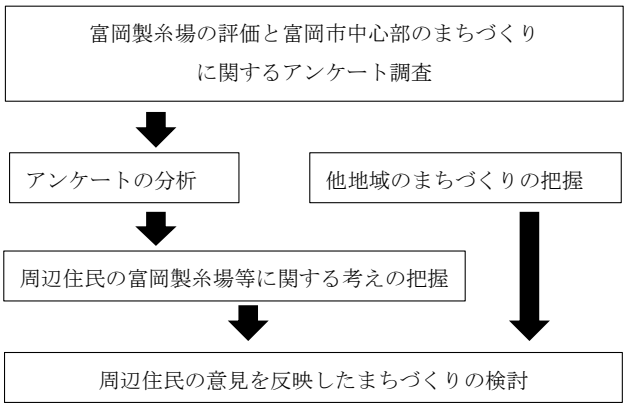

図-1　研究の流れ

表-1　富岡製糸場周辺住民に行ったアンケート調査の概要

調査地域	富岡製糸場周辺地域
配布日	平成25年7月14、15日
配布方法	ポスティング
回収方法	郵送回収
配布枚数	1500票
回収枚数	391票
回収率	26.1%
調査項目	・個人属性 ・富岡製糸場の現状 ・富岡製糸場周辺部の将来展望 ・富岡製糸場において重要と思われる点 ・絹産業遺産群の認知度 ・寄付金について

４．研究結果

(1) 富岡製糸場の重要だと思われる点に関する調査

図-2 は富岡製糸場の施設や制度についてどのようなことが重要であると思われるか 5 段階で調査を行い集計した結果である。15 項目中 13 項目で、重要度（「重要である」と「多少重要である」の合計）が 70%以上という結果になった。また「富岡製糸場は世界遺産としての価値があると思いますか」の項目以外では瑣末度(「重要でない」と「あまり重要でない」の合計)は 5%以下であり、富岡製糸場の周辺住民は富岡製糸場を

キーワード　緩衝地帯　石見銀山　パーク＆バスライド　乗り入れ規制　街並み
連絡先　〒371-0816　前橋市上佐鳥町 460 番地 1　前橋工科大学工学部社会環境工学科
TEL/FAX　027-265-7362　E-MAIL:yuzawa@maebashi-it.ac.jp

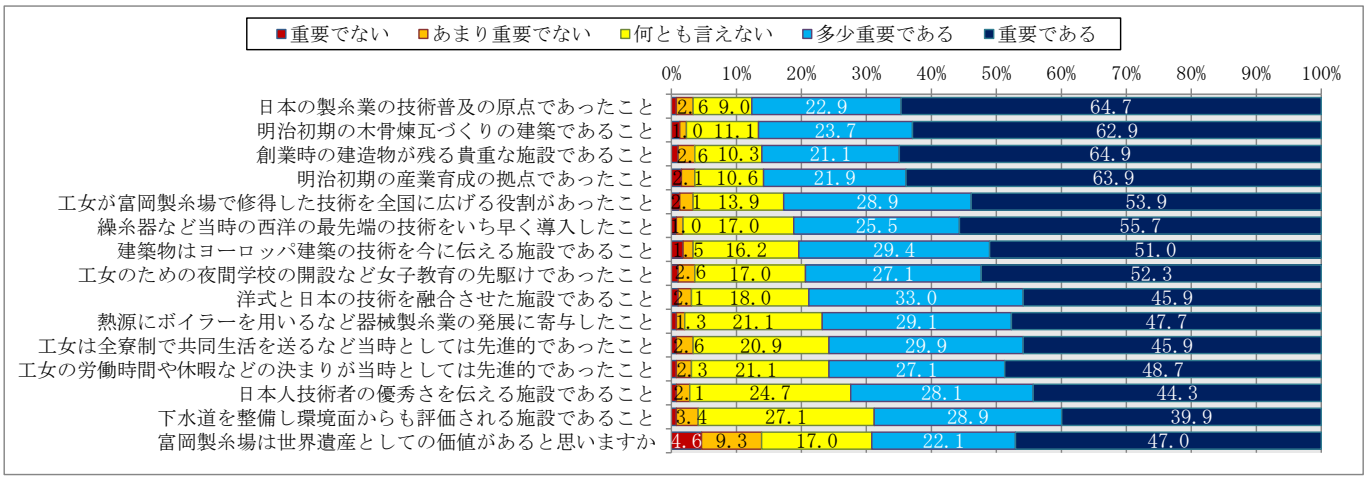

図-2　富岡製糸場について重要な項目に関する調査結果

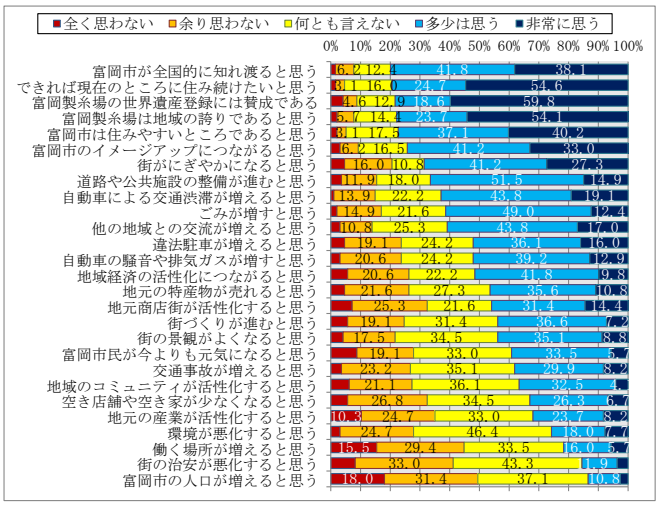

図-3　観光地化に対する住民意識調査

非常に重要な施設だと認識していると考えられる。

(2) 観光地化に対する住民意識調査

図-3 は富岡製糸場に見学に来る観光客が年々増加傾向にあり、そのことについてどのように考えているか 5 段階で調査を行い集計した結果である。「非常に思う」「多少は思う」と回答した割合の合計が高い項目に注目してみると、(1) の調査結果で示したものと同様に富岡製糸場は地域の誇りであると高く評価されているのが分かる。また富岡市が全国的に知れ渡る、イメージアップにつながるという質問項目も「多少は思う」「非常に思う」と回答した割合が高く、富岡市の知名度の向上も期待されていることが伺える。しかし、自動車による交通渋滞や違法駐車、騒音・排気ガス問題、ごみの増加などマイナス面の影響を懸念する意見も半数以上見られた。

(3) 富岡市中心部の現状に関する調査

表-2 は富岡市中心部の現状の評価について 5 段階(1. 不満、2. やや不満、3. ふつう（何とも言えない）、4. やや満足、5. 満足）で尋ねたデータを用いて因子分析を行った結果を示したものである。因子分析の結果 4 つの因子が抽出され因子 1 から因子の名称を「観光地化への対応」「まちなかの景観」「施設見学の快適性」「まちなかの清潔感」とした。次にこれら 4 つの因子毎の因子得点を説明変数に、目的変数として「富岡市の中心部は総合的に判断していかがでしたか（同様に 5 段階評価）」という質問項目を用い重回帰分析を行った結果が表-3 である。重回帰分析の結果より抽出された 4 つの因子全てが富岡市中心部の総合評価に影響を与えていることが分かるが (t 値全てが 5%有意水準を

表-2　富岡市中心部の評価（因子分析結果）

項目	因子1	因子2	因子3	因子4
トイレの整備状況は	0.775	0.142	0.183	0.096
休憩所の設置状況は	0.716	0.093	0.326	0.101
歩行時の安全性は	0.500	0.282	0.167	0.181
お土産の種類の多さは	0.408	0.320	0.347	-0.030
まちなかの景観は	0.132	0.838	0.156	0.212
まちなかの歴史や文化的な雰囲気は	0.219	0.608	0.244	0.271
まちなかの賑わいは	0.165	0.582	0.218	-0.011
観光情報(観光案内)の提供は	0.224	0.189	0.721	0.037
富岡製糸場までの行きやすさは	0.230	0.188	0.590	0.172
富岡製糸場の管理状況は	0.210	0.204	0.547	0.239
店員や職員の接客態度は	0.331	0.251	0.385	0.185
まちなかの清潔感は	0.075	0.186	0.241	0.842
まちなかのごみの散乱状況は	0.149	0.092	0.070	0.806
固有値	1.906	1.841	1.797	1.652
累積寄与率	14.7%	28.8%	42.6%	55.4%
因子の名称	観光地化への対応	まちなかの景観	施設見学の快適性	まちなかの清潔感

表-3 中心部評価に関する各因子の重要度（重回帰分析結果）

因子の名称	偏回帰係数	標準偏回帰係数	t　値	P　値	判　定
観光地化への対応	0.239	0.226	5.96	0.000	**
まちなかの景観	0.426	0.416	11.09	0.000	**
施設見学の快適性	0.441	0.397	10.42	0.000	**
まちなかの清潔感	0.076	0.077	2.05	0.041	*
定数項	2.491		73.64	0.000	**
決定係数	0.464				
F値	84.4				**

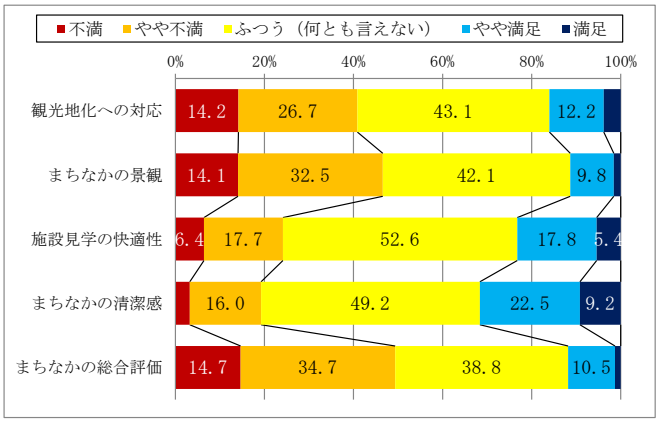

図-4　因子別の集計結果

図-5　石見銀山緩衝地帯

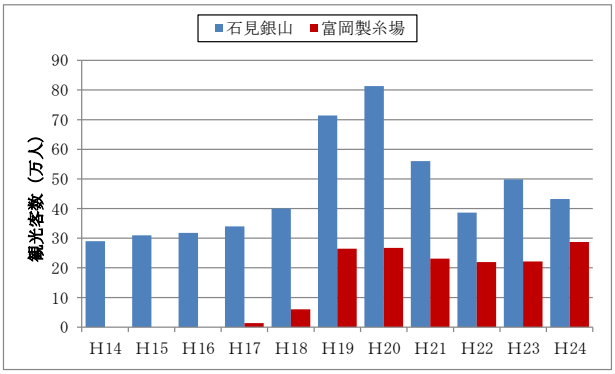

図-6　石見銀山・富岡製糸場入場者数経年変化

満足)、中でも「まちなかの景観」の影響が最も高い結果となっており、次いで「施設見学の快適性」「観光地化への対応」「まちなかの清潔感」の順になっている。この重回帰分析の結果より各因子が統計的に有意であることが確認できた。

図-4 は表-2 に示した 4 つの因子毎に調査項目を集計した結果を示したものである。例えば「観光地化への対応」については、表-2 に示した「トイレの整備状況は」「休憩所の設置状況は」「歩行時の安全性は」「お土産の種類の多さは」の 4 項目について 5 段階評価結果を合計した。図から「まちなかの景観」と「観光地化への対応」の因子で不満度（「不満」と「やや不満」の合計）が 40%を超えており、高くなっているのが分かる。また、まちなかの総合評価に関しても不満度が 50%近くとなっており、富岡製糸場周辺住民は総合的に判断して富岡市中心部の現状に不満と感じている結果となった。

（4）アンケート調査結果を分析し得られた問題点

以上の事から、富岡製糸場周辺住民の意見を反映したまちづくりを検討するにあたり次のような問題点の解決が必要であると考えられる。

①観光地化により増加が見込まれる自動車による問題
②観光地化に向けた中心部の景観に関する問題

５．問題解決に向けたまちづくりの検討

アンケート調査結果を分析し得られた問題点を解決するにあたり、図-5 に示すような島根県大田市にある石見銀山緩衝地帯のまちづくりを参考にした。石見銀山緩衝地帯をまちづくりの参考にした理由は 2 つある。1 つ目は富岡製糸場が登録を目指す産業遺産としての世界遺産であること、2 つ目は観光地としての規模の大きさが似通っている点である。図-6 で石見銀山と富岡製糸場の年間観光客数を比較した。石見銀山は平成 14 年に世界遺産暫定リストに登録された、さらに平成 19 年に世界遺産に登録され、翌年には年間 80 万人以上の観光客が訪れたがブームが去った現在年間約 40 万人前後の観光客が訪れている。一方、富岡製糸場は昭和 62 年に操業を停止して以降富岡市が管理するまで基本的に一般非公開であった。しかし、平成 17 年に富岡市に管理の手が移り、平成 19 年に暫定リストに記載されることで訪れる観光客数が増加し、年間約 25 万人前後が訪れている。

（1）自動車による問題

石見銀山において緩衝地帯への自動車の乗り入れを制限する方法として、パーク＆バスライドが用いられている。まちなかの外に観光客用の駐車場があり、まちなかまで路線バスで移動してもらうというものである。

富岡市中心部は図-7 中の赤く示した富岡製糸場の東側の黄色で示した東西に延びる道路（以下、城町通りとする）が富岡製糸場へのメインの誘導路となっており歩行者も多数みられる。それらの歩行者の安全を確保するため歩行者の増加が見込まれる 8 時から 18 時

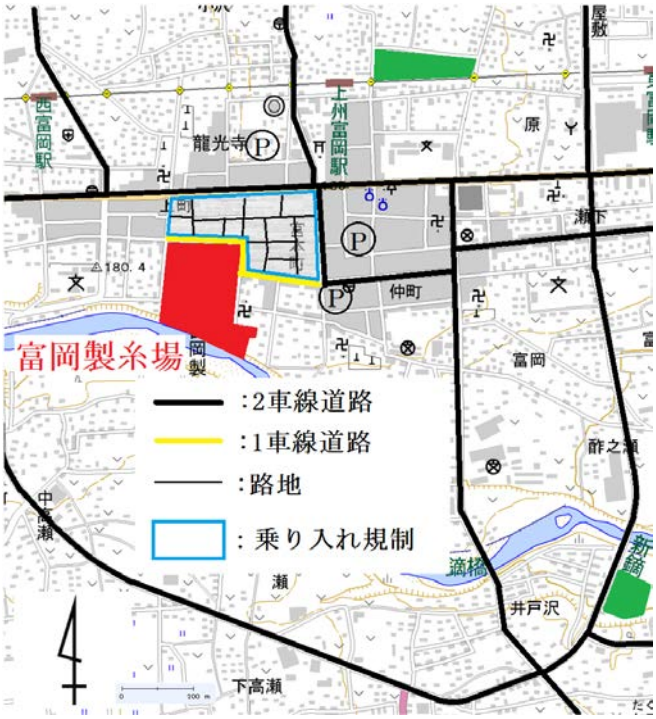

図-7　富岡市中心部

（富岡製糸場の開場している時間の前後 1 時間）までの間、図-7 中の青色で囲んだ部分（黄色で示した道路も含む）を自動車の乗り入れ禁止を行い、それ以外の時間帯では黄色で示した道路で東から西方向での一方通行での自動車の通行を実施する。これは歩行者の安全第一のなかでも住民の自動車生活に配慮してのことである。また来場する観光客の増加が見込まれており、既存の駐車場の容量（市営・民間合計で普通車 195 台、バス 14 台）をオーバーすることも考えられている。その対策案として観光バスは中心部の駐車場で乗客に乗降してもらい、待機時間は中心部の周辺に駐車場を整備し（図-7 中の緑囲み）待機する。個人客に関しては中心部の周辺の駐車場から路線バスで中心部へ向かうパーク＆バスライド方式が有効であると考える。

(2) 景観に関する問題

石見銀山緩衝地帯の街並みは約 200 年前に形成され現在は石見銀山景観保全条例によって保護されている。石見銀山景観保全条例は屋根や外壁などの 16 項目で修景基準を設けており、街並み壁面線の考慮や壁面に漆喰や自然素材などを使用することが記されている。以上のような事から石見銀山緩衝地帯は江戸時代を思わせるような統一感のある街並みとなっていると考えられる。

一方、富岡市中心部は富岡製糸場とともに発生した

図-8　城町通りから見た富岡製糸場

飲食店や長屋が集積し商業地域として繁栄してきた歴史がある。さらに現行の景観計画は平成 21 年から開始されているが石見銀山景観保全条例のように使用材料などまでの規定はなく、建築物・工作物の基準については色彩と高さの基準のみである。富岡市中心部の現状は図-8 に示す通りである。景観の改善には電柱の地中化を行うことによって電線による景観の損ないも解消することが可能である。また、中心部全体で明治時代の長屋をイメージした街並みづくりを目指し現状の計画よりも屋根や壁面などの使用材料やデザインなど詳細に規定した条例づくり、さらに現在富岡市で行われている、市から指定された場合や認定を受けた建築物の修理修景への助成金である富岡市景観形成助成金の活用や周知にも努めることが有効であると考える。

6．まとめ

富岡製糸場の周辺住民は富岡製糸場を文化的に価値のある施設であると認識しており、世界遺産登録にも約 78%の住民が賛成している。しかし中心部の現状については不満という意見が目立った。自動車に関する問題に対しては自動車の乗り入れ規制やパーク＆バスライドを行い、景観に関する問題に対しては明治時代の長屋をイメージして街並みの形成を行うことで富岡市中心部の統一感を演出し問題解決を図る。以上のような問題解決を行うことで住民の意見を反映したより良いまちづくりができると考えられる。

参考文献

1) 富岡市 HP(2013. 12. 3)
http://www.city.tomioka.lg.jp
2) 島根県 HP(2013. 12. 23)
http://www.pref.shimane.lg.jp/